

都市再生整備計画 事後評価シート

滝沢村役場周辺地区

平成30年1月

岩手県滝沢市

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 岩手県 | | 市町村名 | 滝沢市 | | 地区名 | 滝沢村役場周辺地区 | | 面積 | 215.6ha | | |
|--------------------------------------|--|---|--|---|--------------------------|--|-----------|---------|---|--|---|---|
| 交付期間 | 平成24年度～平成28年度 | | 事後評価実施時期 | 平成29年度 | | 交付対象事業費 | 3580.6百万円 | 国費率 | 0.4 | | | |
| 1)事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 | | | | | | | | | |
| | | | 基幹事業 | 高次都市施設：地域交流センター（交流拠点複合施設）・観光交流センター（産業創造センター）、地域生活基盤施設：地域防災施設（防災広場・調整池）・広場・緑地 | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 提案事業 | 地域創造支援事業：図書館（交流拠点複合施設）・公民館施設改修・老人福祉センター施設改修、まちづくり活動推進事業、滝沢NT連携事業・滝沢ブランド発信事業・地域づくり交流ネットワーク事業、事業活用調査事業：事後評価事業 | | | | | | | | |
| | | | 事業名 | | | 削除/追加の理由 | | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | |
| | 新たに追加した事業 | | 基幹事業 | なし | | | - | | | - | | |
| 提案事業 | | | 地域創造支援事業：公民館施設改修、まちづくり活動推進事業；滝沢NT連携事業・滝沢ブランド発信事業・地域づくり交流ネットワーク事業、事業活用調査事業；事後評価事業 | | | 公民館施設改修は庁舎施設として改修することとなったため事業対象外とし、その他は事業期間内に実行できなかったため。 | | | まちづくり活動推進事業は、施設指定管理業務と一体的に実施し、事業活用調査事業は直営実施としたため影響なし。 | | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | 平成24年度～平成28年度 | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | - | | | | | |
| | | 変更 | 変更なし | | | | | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因（総合所見） | フォローアップ予定時期 | |
| | 指標1 | 地域交流センターと図書館の利用者数 | 人 | 25,065 | H22 | 150,000 | H28 | 496,159 | ○ | あり なし | 平成28年12月に交流拠点複合施設（ビッグルーフ滝沢）が開館し、休日のイベントの他、平日の貸館利用も増えてきたことにより、大幅な目標達成につながった。 | - |
| | 指標2 | まちづくりコミュニティ交流回数 | 回 | 5 | H22 | 10 | H28 | 34 | ○ | あり なし | 施設開館により交流の場ができたことで、自治会やNPO、学生の今まではなかった活動が盛んに行われ、目標達成につながった。 | - |
| | 指標3 | 役場周辺地域のイベント回数 | 回 | 5 | H22 | 10 | H28 | 33 | ○ | あり なし | 施設開館後、人が集まるメリットから、指定管理者による自主事業や民間等による貸館イベントが数多く企画されたことにより、目標達成につながった。 | - |
| | 指標4 | | | | | | | | | あり なし | | |
| | 指標5 | | | | | | | | | あり なし | | |
| 3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因（総合所見） | フォローアップ予定時期 | |
| | その他の数値指標1 | NPO等の市民団体の登録数 | 団体 | 0 | H22 | | | 47 | | | 初めて開設した市民活動支援センター（たきサボ）が認知され、無料スペースの使用等、登録団体が利用しやすい環境整備をしたことにより、登録につながった。 | - |
| | その他の数値指標2 | 産業創造センターの利用者数 | 人 | 0 | H22 | | | 301,517 | | | 市で初めての観光案内所ができ、産直やレストランを一体整備したこと、コミュニティセンター、図書館との複合施設というメリットから利用者数につながった。 | - |
| | その他の数値指標3 | 産直に出荷した生産者数 | 人 | 77 | H22 | | | 99 | | | 複合施設内の産直というところで、これまで既存の産直には出荷しにくかった生産者の方が、初めて出荷することにつながり、農産物の活性化につながった。 | |
| 4)定性的な効果発現状況 | <ul style="list-style-type: none"> 平成28年12月にオープンした交流拠点複合施設（ビッグルーフ滝沢）では、指定管理者が実施する自主事業の他、貸館によるイベント等により、多くの来館者による交流と賑わいが創出されており、市民が集う拠点となっている。 地域交流センター、図書館、産業創造センターからなる複合施設となっているため、各分野での連携により、今まではなかった異業種交流が生まれ、相乗効果によりエリアの活性化につながっている。 災害時は、対策本部の市役所と連携した避難所の拠点としての機能を持ち合わせており、防災広場を活用した防災訓練を行う等、防災力の強化につながっている。 | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | 実施内容 | | 実施状況 | | | | | | | | 今後の対応方針等 | |
| | モニタリング | なし | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | - | |
| | 住民参加プロセス | 構想計画の段階や実施設計の際に、住民参加型ワークショップの実施により計画を行い、完了後においても住民参加の活動やイベントが行われている。 | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | ● 今後は住民が主体となった活動が実施されていき、さらに活動の場が広がっていくことで、住民の交流の場の創出を進めていく。 | |
| 持続的なまちづくり体制の構築 | ・市民活動支援センター（たきサボ）の設置。 ・経営的な民間活力を生かした運営の構築。 | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | ● たきサボの充実化を図ることで市民団体の活動を活性化させ、それらを支える施設運営においてもしっかりと収入を得て循環させる仕組みとなるよう努めていく。 | | |

様式2-2 地区の概要

滝沢村役場周辺地区(岩手県滝沢市) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | 従前値 | 目標値 | 評価値 |
|--|------------------------|------------|-------------|-------------|
| 滝沢市役所周辺に魅力ある行政・公益施設ゾーンを創出し、市民の交流と学習により活力あるまちづくりの拠点とする。(平成26年1月より村から市へ移行) | 地域交流センターと図書館の利用者数 単位:人 | 25,065 H22 | 150,000 H28 | 496,159 H29 |
| | まちづくりコミュニティ交流回数 単位:回 | 5 H22 | 10 H28 | 34 H29 |
| | 役場周辺地域のイベント回数 単位:回 | 5 H22 | 10 H28 | 33 H29 |
| | NPO等の市民団体の登録数 単位:団体 | 0 H22 | | 47 H29 |
| | 産業創造センターの利用者数 単位:人 | 0 H22 | | 301,517 H29 |



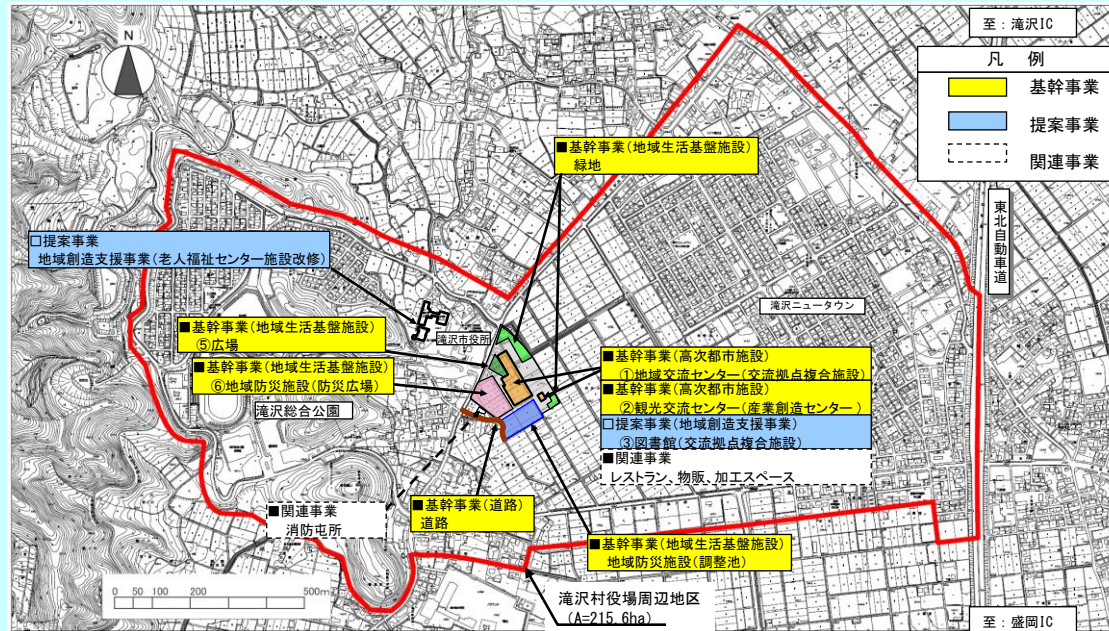
①交流拠点複合施設(施設全景)



①交流拠点複合施設(ふれあい広場)



②産業創造センター(産地直売)



③交流拠点複合施設(図書館)



④広場(たきざわ広場)



⑤防災広場

まちの課題の変化

- 本市は、盛岡市の外延的に民間の宅地開発で人口が増えてきたため、市の核(へそ・顔)と云うにふさわしい場所が無い。→市役所前に複合施設を整備したことで、人が集まる交流の拠点として、市の中心部と呼べる場所ができた。
- 公民館、図書館等が老朽化し、狭隘化し、市民の十分な利用に答えられなくなっている。→従来よりも大きな規模の施設として公民館機能及び図書館の移築したことにより、市民活動の促進につながった。
- 市内の大学や学生、市民の中にある人材やノウハウが必ずしも活かされていない。また、その情報があまりない。→市内の大学による活動の場としての利用が行なわれる他、施設を拠点として活動する人材の発掘につながっている。
- 地域の自治会やまちづくり団体は、奮闘しているものの、地域の高齢化や価値観の多様化の中で地域に「疲れ」が見えてきている。→市民活動支援センター等を通じて、新たな活動の場ができ、さらに新たな交流が生まれてきている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

滝沢市役所前に交流拠点複合施設を中心とした整備を行ったことで、市の中心部としての拠点ができ、ここを中心とした市民の交流が生まれてきている。今後はさらなる交流と賑わいの創出につながるよう、民間活力を生かした経営的運営を行うことで、指定管理者もしっかりと収入を得て、それが事業に還元され循環していくことで、持続可能な運営を行っていききたい。そしてより市民が主体的に活動できるよう市民活動支援センターの充実を図り、市民が中心となる体制を構築していきたい。

またこのエリアには、滝沢総合公園や滝沢ニュータウンという団地も含まれており、連携を図りながらエリア全体の価値を高めていくまちづくりとなるよう市民と市と企業というみんなが一体となって、つくりつづけていきたい。